

# MODEL AC-500

## PORTABLE SOUND SYSTEM

日本語解説：尾崎隆敏

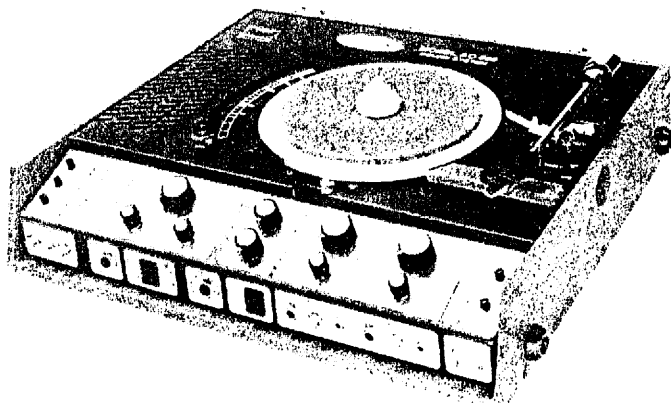
### GENERAL DESCRIPTION

ヒルトンアンプでは最大出力の新アンプ。速度変更可能なターンテーブルとアンプが一体で一つのケースに納められています。アンプは二チャンネルに別れて構成され、片チャンネルを独立して使うことも、両チャンネルを一緒に使うことも可能です。入力および出力ジャックは単独で調整可能で、CD・テープ等他の外部ソースに充分対応します。

### FEATURES

#### ケースとシャシー

アンプケースには9.5ミリ厚のMFD板を使い、チャコール色のニトロセルローズ塗料を吹き付けたタフなものとなっています。また、要所にはクロームメタル光沢仕上げの金具を取り付けて補強してあります。アンプ使用時にはケース全体が4個のばね足により支えられ、突然の衝撃にも、出来るだけ針が跳ばないように考えられています。シャシーはアルミ製で、黒の超硬塗料をコートしました。主なコントロール類は前面の斜めになった部分に配置し、手を伸ばし易い設計になっています。マイクロホン入力やその他の入力および出力端子は邪魔にならないように前面端のパネルに配置し、また、ケーブル類に負担がかからないようにしました。放熱部も効率良い放熱を行なうため、底部グリルからシャシー上面の放熱穴に向かって、空気が流れるように考えられています。



#### プリアンプ

AC-500はヒルトンでしか得られない、素晴らしい音を提供します。ミュージックの音質コントロールは低音と高音に分けられ、極端に幅広い範囲での制御を可能にしました。ミュージックの低音と高音をコントロールしても、音声には何の影響も与えません。高インピーダンスのマイクロホン入力回路は全く同じものが二組用意され、それぞれ独立して音量と音質をコントロールできます。また、ヒルトンのマイクロホン回路は特に明瞭でクリアな音声を再生するように作られており、素晴らしい音質のミュージックを背景に、コマンドやキューをはっきりと伝えることができます。

#### 録音と再生

ステレオテープレコーダーを使うと、音声を一つのトラックに、音楽をもう一つのトラックに録音可能です。それぞれのAUX入力と出力にはボリュームコントロールが用意され、どのレコーダーまたはプレイヤーとも良くマッチします。前面の二つの出力ジャックからは音声と音楽が別々に提供され、二つの入力ジャックからは二つのトラックに録音された音を入力することができます。マイクロホンおよびミュージックのボリュームとトーンコントロールを調節して、最適な音声と音楽をお楽しみ下さい。一つのトラックで音声/音楽と一緒に録音する場合は後部パネルの出力端子をお使い下さい。LOW(マイク)用とHIGH(ライン)用の二つの出力があります。

#### トーンアームのリモートリセット

マイクロホンベースのボタンを操作することにより、45回転レコード上に予め選択した位置へトーンアームを一時停止し、リセットします。この機能はダンスの特定部分を講習したり、繰り返す時にとっても有益です。ダイヤルを廻してリセット位置を変更します。

#### ミュージックボリュームのリモートコントロール

音楽のボリュームレベルはマイクロホン側から調節可能です。この機能によって、アンプ上のミュージックボリュームのつまみに触ることなく、エキサイトさせるために音楽を大きくしたり、重要なコマンドやキューを際立たせるために音楽を1/10にしたりできます。トーンアームのリセットとミュージックボリュームのリモートコントロールコード一式は、AC-500に付属しております。

## ターンテーブル

速度は26回転から60回転迄無段階に变速可能です。ネオンライトを使ったストロボを見て、45回転または33 $\frac{1}{3}$ 回転を正確に設定できます。ターンテーブルはヒステリシス・シンクロナス・ギアモーターで下側から直接に駆動され、モーターの回転は電圧の変化に影響を受けません。トーンアームには高コンプライアンスのセラミックカートリッジを配し、また、不必要な振動を防止するため、トーンアームはゴムにより浮動されています。

INCREASE - 増量増

→ 通常

## 出力切替スイッチ

AC-500をより使い易くするため、二つのモードをスイッチにより切替るようにしました。"NORMAL" または "INCREASE" を切替る "VOLUME MODE" 切替スイッチです。あまり大きな音を必要としない時は、"NORMAL" 設定を選ぶとアンプをコントロールし易く、"INCREASE" ではコントロール類をあまり大きく動かさなくても、比較的大きな音を得られます。また、"MAIN/MONITOR" を操作すると、二チャンネルのアンプを独立して別々に、または一緒に動かすことができます。"COMBINED" を選択すると、二チャンネルを同時に一組のコントロール類で駆動することが可能です。

↳ 結合する

## 二連ビューメーター

音声と音楽の出力をそれぞれ20段のLEDで表示します。点燈しているLEDを見れば、音楽と音声の大きさとその両者のバランスを判断できます。アンプから離れていても良く見えます。

## イコライザージャック

イコライザー、ピッチシフター等の外部機器を使って特定の効果を希望する時は、音声回路と音楽回路に各一個ずつ配置された二つのジャックをお使い下さい。各ジャックは入力/出力を一個で行なうため、ステレオジャックが使われています。

## 電圧

コンピューター標準のAC電源コードが使われ、ヒューズ組み込みのON/OFFスイッチは100V、120V、220V、240V動作に変更可能です。MOVスパイク保護回路も組み込まれています。後部パネルにはスイッチに連動したヒューズ付きのAC用差し込みがあり、便利です。電源ONを示すライトは前面パネルにあります。AC-500は50ヘルツまたは60ヘルツの周波数で動作しますが、特に50ヘルツの場合は「メーカーでの調整が必要」ですので、その旨お知らせ願います。

↳ 静岡より以北の地域(関東、東北、北海道など)

## 付属品

交換針1本、スピーカー用直列Yコード2本、電源コード、U接地アダプター、針クリーナー、リモートレコードリセットミュージックボリュームコントロール一式、携帯用保護段ボール箱、ネームプレート、使用説明書。

## 端子とコントロール類

ボリュームコントロール:	メインパネル フォノ モーター ミュージック	① Mic 2、のみでは、ボリュームコントロール操作がきかない。 Mic 1を利用して分岐したいため。	メインパネル マイク モーター ボイス(マイク1&2)	メインパネル マイク2
トーンコントロール:	フォノ ベース マイク2 トーン		フォノ トレブル	マイク1 トーン
AUXミュージックコントロール:	アウトプットレベル		ABバランス	ABインプットレベル
AUXボイスコントロール:	アウトプットレベル		インプットレベル	
前面パネル端子:	AUXミュージック(3RCA) マイク1 インプット(1/4") リモートボリューム(2 1/8")		EQミュージック(1/4" ステレオ) マイク2 インプット(1/4") AUXボイス(2RCA)	EQボイス(1/4" ステレオ) リコードリセット(2RCA)
上面デッキ:	ターンテーブルスピード		スピーカーライト	リコードリセットON/OFF
後部パネル:	ACインプット 2モータースピーカーアウト(1/4")		ACアウトレット 2メインスピーカーアウト(1/4")	FM/AM アウト(2RCA)

1チャンネル当たりの負荷インピーダンスは4オームから16オームの間でお選び下さい。4オーム未満で駆動しますとオーバーヒートの原因になります。

サイズ:

15.2cm X 40.6cm X 45.7cm

携帯重量11.6kg

## 連絡先

☎192 八王子市大和田町7-11-10

尾崎 隆敏

☎/☎: 0426-45-5382

ヒルトンアンプを上手に使いこなすために:

尾崎 隆敏

## マイクロホン

常にマイクロホンに近づいて使い、2センチ以上は離さない。できるだけ真っ直ぐ前で唇に近づけ、マイクの中に声を投げ込むようにコールするのではなく、マイクを飛び越して向こう側に声が届くように発声する。声の力や効率が半分になるようですがこれで十分なのです。同じようなことがワイヤレスマイクロホンにも言えます。マイクロホンは唇に近く使う程声の再生性能が上がり、フィードバック（ハウリング）の危険率も低くなります。

## 声と音楽のバランス

動作の指示をダンサーに徹底するため声は音楽を超えてははっきりと出て来なければなりません。音楽を上げ過ぎて、コーラーの声が音楽に埋もれてしまい、声を大きくとダンサーにいわれることがよくあります。声が良く届くようなホールでは声が大きくなり、音楽も比較的小さいのが良いのです。一般的にはホールが大きくなって反響がひどくなると、声を音楽からはっきりと際立たせてダンサーがコールをよく聴けるようにする必要があります。誰か信頼のおける人に声と音楽のバランスをダンサーの位置でしっかりと聴いてもらう必要があります。

## フィードバック（いわゆるハウリング）

フィードバックはスピーカーから大きな音が出て、その音がまたマイクロホンで拾われ、アンプ、スピーカーと一巡した時に起こります。殆どマイクテクニックの悪さに起因します。マイクを遠く離して使っているためアンプの出力を上げなければならないからです。スピーカーに近過ぎる場合も起こります。

## 音質（低、中、高音）の調整

音響的に優れているホールでは音質を極限まで調整することが可能ですが、反響の多いホールなどでは声と音楽のバランスを調整するばかりでなく、声と音楽の音質また音量（ヴォリューム）もしっかりと調整しなければならない。音楽の音量を少なくし、過度の低音部分を取り除き、高音部も少しカットしてコーラーの声の高音成分を際立たせる。AC-201には中音コントロールがあるので調整範囲が広くなり対応し易い。そしてマイクの音質調整で高音部を上げて声を音楽の上に乗せる。この調整により自分の好みの音とはかけ離れるが、全体の幸せを考えるべきである。AC-300Cではグラフィックイコライザーなどの追加もマイク-1とレコードチャンネルで可能なので、かなり幅広く調整でき、フィードバックにも有効となる。

## スピーカーの位置

当然ながら全てのフロアに音が行き届くのが良い。後ろで踊るダンサーが気持ちよく踊れて、前で踊るダンサーにはうるさくないようにスピーカーの位置を充分高くする。スピーカーは高く掲げその角度を音のビームがホールの一番後ろの床を狙うように配置する。スピーカーはできるだけ自分の近くに置き、上記声と音楽のバランスに注意を払う。この時フィードバックには充分注意する。スピーカーは決して平らな堅い壁に直接向けて配置してはいけない。音が遅延して自分に跳ね返り、大変コールし難くなります。この場合は思い切ってスピーカーを傾け、後部で踊るダンサーに向けて配置します。また、スピーカーを汎用接続する必要がある場合はインピーダンスに気をつけ、必ず4オーム以上でメインまたはモニターに接続して下さい。この時メイン、モニターとも差し込みが2個ずつありますので注意して下さい。この2個の差し込みは並列に接続されています。どちらか一つからスピーカーへ結線するようお勧めします。次ページに結線例を示します。

→ 差し込み口は2つあるが、中が並列になっているので、2つからはスピーカーをつながないこと。

## アンプのスイッチ・オン

①スピーカーをスタンドに乗せスピーカーコードを差し込み、他端をアンプのスピーカージャックの一つに差し込む。②ターンテーブルの回転調整レバーがオフに、音楽とマイクボリュームが最少になっていることを確認し、マイクケーブルを差し込む。③電源コードをアンプに差し込んでから他端を壁の差し込みへ入れる。④アンプのスイッチをオンにする。

→ 電源は、結線後にやる習慣を!

## アンプのスイッチ・オフ

①ターンテーブルの回転調整レバーをオフに、音楽とマイクボリュームを最少にする。②アンプのスイッチをオフにする。③接続しているコード類を外す。